2019 年 7 月 5 日受信②

増水期のマルワリード＝カシコート連続堰。2014 年の竣工以来、殆ど改修が、行われていないが、極めて安定している。505mという広い堰幅に加え、二つの鉄筋コンクリート製の土砂吐きがあり、堰体の痛み方が少ない。しかし、マルワリード側水門幅が狭いので、低水位期に無理なせきあげが要ることもあり、今回、水門改修を含めて抜本的に解決しようとしている。カシコート側は後で作っただけに完成度が高い。樹林帯も良く育ち、安定して見える。

2019 年 6 月 30 日

マルワリード側の巨礫による土砂吐きが悪い訳ではない。石で作った割には安定しているが、やはり水門幅が難点で、必要水量を得るためにやや高めの水位が求められる。部分可動堰の土砂吐きを組み合わせると、完成度が飛躍的に高くなり、維持も容易との判断。2019 年 6 月 30 日

16 年前に作られたマルワリード堰取水門は、幅約 120 ㎝×3 連で、その後標準となった 150 ㎝×4 連と比べて、同じ水位なら流水断面が約 3 分の 2。そのため、無理なせき上げを図って膨大な努力を費やした経緯がある。治安情勢で水門改修が先送りされてきたが、今回はこの問題に終止符を打つ予定。

2019 年 6 月 30 日

2.3 km地点の小さな涸れ川（幅 15m）を横切る水道橋、その上流側の鉄砲水による洗堀。2018 年 11 月の集中豪雨で洗堀され、軟弱なシルト層が約 100mにわたって崩落、用水路まで数メートルに迫った。他の派手な被害に目を奪われて放置されていたが、他州の技術者が通報、決壊寸前だったので急きょ応急処置を行っている。普段からの見回りの指導が不十分だった点も反省され、一連の出来事を機に、抜本的態勢確立へ向けて動き出す。2019 年 7 月 1 日

無人と思われた崖の小洞窟は、シーシーという小鳥たちの住処になっていた。初日は沈黙していたが、二日目から数百羽が一斉に、猛然とおどりだして、抗議の声を上げ始めた。崖を崩すことは急きょ取りやめ、施工方針を変えた。必死でひなを守る姿が、人々の同情を集めるのだ。2019 年 7 月 2 日

同 2.3 ㎞地点に置かれたカンレイ水車。5 年を経た揚水水車はバケット部分が傷みやすく、村民がプラスチックの箱で代用していた。これで決して悪くはないが、マメに補修しないと揚水量が落ちる。今回維持に協力すると共に、PMS 設置の水車以外は全て撤去、用水路の流れを良くする。2019 年 6 月 30 日

カマ第一堰、下流からの眺め。熱波と共にクナール河の増水がピークに達し、増水期の観察と調査で走り回る。少雨のため塵埃が舞い、遠くがかすむ。意外に水位上昇が少なく、安定している 2019 年 7 月 4 日

同カマ第一堰を近くに望む。2019 年 7 月 4 日

カマ第二堰取水門下流側。洪水流入を防ぐ。カマも水稲栽培が非常に多いらしく、二つの取水門から毎秒十数㎥が送られている。

2019 年 7 月 4 日

カチャラ護岸 6.5-6.8km 地点（マルワリードⅡ堰流域）は増水を横目に、こつこつと仕事が進められている。写真は撤去された民家と川幅の拡張工事。川幅は 160mから 190mに拡大され、堤防も更に 1.5mかさ上げされる（2019 年 6 月 21 日受信②報告参照）。2019 年 7 月 4 日

カチャラ護岸 1.5 ㎞地点の強化堤防斜面、シーシャムの樹林帯。植樹後一年半を経過、ほぼ活着して急速に成長し始めている。2019 年 7 月 4 日

カチャラ（マルワリードⅡ）堰、主幹水路 2.5 ㎞付近。柳枝工は一年を経過。活着しかけている。水やりの秘訣は、ただ根気と苗木への愛惜に尽きる。
2019 年 7 月 4 日